☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 輝く地域の星となれ ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

報道で見る氷上西高　２０２０

丹波新聞　令和２年７月１６日（木）

氷上西高で選挙授業

市選管　「将来考え投票する」

丹波市選挙管理委員会が13日、氷上西高校で、3年生（30人）を対象に、選挙出前授業を行った。制度について解説したり、模擬投票を行い、選挙の意義と重要性を伝えた。若年層の投票率向上を図ろうと、18歳選挙権が始まった2016年から毎年実施している。

市選管の余田憲太さんが、「選挙制度が始まった1890年（明治23）当時、選挙権があったのは納税額15円以上で25歳以上の男性のみ。わずか1・1％程度の人にしかなかった」と歴史を振り返り、「投票は国民の重要な権利。私たちが政治に参加できる唯一の機会」と呼びかけた。

また16年7月の参院選における丹波市の18歳の投票率は41・08％だったが、19歳になった翌17年10月の衆院選では19・94％と、大きく下がったことを指摘。「若者の投票率が低いと、候補者も投票率の高い高齢者向けの政策をやろうという気持ちに傾いてしまう」と注意を促した。

模擬投票を体験する生徒たち＝青垣町佐治で

模擬投票では、市が手に入れた広大な土地の活用をめぐり、市長選挙で3人の候補者が▽老後が安心なまちへ「介護付老人ホーム」を建設▽子育てしやすいまちへ「保育施設付大規模マンション」を建設▽災害に強いまちへ「避難所付緑地公園」を建設―という公約をそれぞれ掲げて立候補した想定で行った。開票の結果、保育施設付大規模マンション建設を公約に掲げた候補者が半数を獲得して当選した。

今年11月15日には丹波市長選、市議選のダブル選挙が控える。熱心に耳を傾けていた生徒の山口瓜君は、「いまひとつ理解ができていなかった選挙制度がだいぶ分かった。市長選、市議選の頃には僕も有権者になっている。卒業後の進路は地元就職を考えているので、将来のまちのことも考えて、しっかりと一票を投じたい」と話していた。